



森ボラ通信

第21号 2004年 2月20日発行

北海道森林ボランティア協会

札幌市中央区北1条東1丁目明治安田生命ビル8F

Tel 241-8155 Fax241-8308

E-mail : shinrin-b@pc.aaapc.co.jp

撫順市緑化関係者ご一行3月来札濃厚

昨年、撫順市の緑化支援について当会の3人を呼んでくれました中島北大名誉教授の話では、撫順市副市長を初めとする緑化関係者6人が3月中に来札することが濃厚となったようです。北海道樹種による植林地を用意する意向があること。特に地盤沈下区にはビオトープの思想をとりいれ多自然型への誘導についての技術協力を求められるようです。娯楽施設としてはパークゴルフ場を併設したいようなので、見学コースに加えたいと考えます。

一行を歓迎するのに、当会として予算がありません。会員全員での歓迎会を会費方式で企画したいと思えます。日程が決まりましたら確定したいと思います。会費は5千円/人で、会場はアサヒビール百景園にします。会場については撫順市が森林レクリエーション地区のセンター施設の食堂のモデルにしたい意向と聞いております。ご協力をお願いします。

JAICA北海道支部訪問

2月13日（金）、酒井代表、柴田さんと3人でJAICAの札幌事務所を訪ねました。ホンデュラスに展開を考えているプロジェクトについて、当方の要件を確認することが目的です。まずは「草の根協力支援型」ならば発足丸2年を経過した6月に資格が出来ることが判りました。上限1千万円で、3年以内に終了することが条件でした。6月1日に提案書を提出するには、今から準備しても早すぎることはありません。酒井代表の2年に及ぶ滞在による指導と今般の会としての正式訪問等の実績は評価されるようです。チャレンジする方向で検討を開始したいと考えます。乗り込んで仕事を手伝いたいと希望される方は手を上げておいてください。希望が叶うようにがんばりましょう。

新入会員の紹介

山本勝幸

長田敏裕

2004年2月16日現在会員数 94名となりました。

講演をしてきました

2月12日（木）苫小牧森づくりセンターで講演をしてきました。「森林サポーター養成事業講習会」の講師に指名されましたので、わが会のPRが出来ます。喜んで行ってまいりました。20数名のサポーター希望者に聞いていただきました。1つでもボランティアグループが立ち上がれば、と願ってきました。

2月幹事会報告

NPO法人申請進行、ホンデュラス関連、作業参加状況、当別ふくろう展後援、撫順市緑化関係者の来札等について報告および確認をいたしました。

<出席幹事：加治、鎌田、酒井、芝、松村、三浦、湊、村上、事務局：高野>

当別ふくろう展がありました

2月9日から15日にかけて当別ふくろう会の主催で「04当別ふくろう展」が開催されました。当会が関係した「森のカルタ原画展」も参加し、1月18日に「道民と考える森づくりの会」に展示した当会のポスターも展示し、後援の形で参加しました。

ホンデュラス報告

1月18日出発、1月31日無事帰札。地球の裏側はさすがに遠いものでした。乗り継ぎがすすい出来なくて、往復ともヒューストンに1泊しなければなりませんでした。お陰様で復路はスーパーボウルのお祭り騒ぎに巻き込まれ、ダウンタウンを突き抜けて海側の郊外NASA地区のホテルしか確保できませんでしたので、思わぬ体験をいたしました。アメリカのハイウエーの素晴らしさと、スーパーボウルがアメリカ人にとって何なのかの一端を垣間見ることができました。

時差が15時間もあり、日本とは昼と夜とが、ほぼ逆転しますので、厳しいものでした。しかし、赤道直下の

熱帯にしては朝夕は涼しく、助かりました。異常気象ということでした。

目的は予期した以上に順調に成果がありました。それも、これも酒井代表の過去の実績と、現在の情熱のお陰でした。植樹候補地現場を6ヶ所視察しまして、まずはコパン地区から手をつけることにしました。コパンには大目玉の世界遺産であるマヤの遺跡があり、外国人観光客が多く訪れます。ホーストレッキングコースに面した景観保全林の植樹です。熱帯で快適な環境であれば、樹木はびっくりする成長をしめします。テグシガルパに近いTigraと呼ばれている雲霧林は太古の森林とばかり思って歩いてきましたが、管理人の説明では、わずか50年生の自然林ということで、まさに「ウツソー」と叫びたくなりました。ミャンマーで親しんできましたチークをととき見かけました。胸高直径が30cm、樹高15mもあるチークをいつ頃植えたのかを聞きますと、たった8年前という返事に恐れ入ってしまいました。われわれが支援する植林地も10年後に訪れると、鬱蒼たる森林になっていると楽しみになります。

提携相手の森林学校は中米5ヶ国で唯一の林業専門大学で、近場の演習林が5000haもあるし、Telaの植物園（Lancetilla）も立派なものでした。なにせ世界中から熱帯樹木を集めてきてありますので、勉強ができます。一方では手つがすの原始林（400ha）が一部にのこされていたりで、魅力満点の場所でした。ここでは天然の役立たずのヤシ林を伐採して、有用樹種に転換する植樹区域があるとのことで視察を試みましたが、川を渡る橋が流失して涉れず、サルのはげめる声を聞いただけで、引き返しました。鳥はすべてが初めてお目にかかるものばかりで、鳥好きにはこたえられない環境でした。

現地10泊、車走行距離約900km、いろいろハプニングもありましたが、3人とも正露丸も飲まず、バンドエイドも使わずに生還しました。虫よけスプレーだけは盛大に使用しましたが、あちこちやられまして、永く痒みがかのこりました。正式報告は3ページをご覧ください。インターネットのホームページにも掲載しております。鳥シリーズの中でもいろいろ報告しております。

「道民とともに考える森づくりの集い」に参加

1月18日、北海道森林管理局と道の主催による「道民とともに考える森づくりの集い」が、かでの2.7で開催されました。これは森づくりに関わる団体等の情報発信・情報交換の場となるもので、我が協会は初めて参加しました。『北海道森林ボランティア協会の地域活動』として、湊代表幹事がトークセッションを、柴田がポスターセッションを担当しました。当日は50を超える団体が参加し、会場は森づくりに関心を持つ人々の熱気に終日包まれました。

湊代表のトークセッションでは、協会の設立経緯から活動の成果、今後の課題などが判り易く解説され、深く傾く聴衆の姿が目に入りました。また、ポスターの前でも多くの方が足を止め、じっくり話を聞いてくれました。100枚用意したチラシがほとんど無くなった程です。我々と同じく澄川都市環境緑地を利用登録している「真駒内・芸術の村森の回廊基金」、有明で活動を展開している「北の里山の会」はじめ多くのボランティア団体とも交流でき、今後の「協働」も楽しみな雰囲気生まれました。

永田、三和、棟方各会員の終日の手伝いに助けられ、初めてにしては成功と言っても良い活動となりました。参加に大いに意義のある催し、毎年恒例の行事としましょう。（柴田久子）